

Information

グループホームに空き室有り。入居者募集中！

共同生活タイプ（男性専用）、アパートタイプ（男女どちらも可）に若干の空き室があります。
随時、相談や見学等を受け付けていますので、お気軽にご連絡ください。

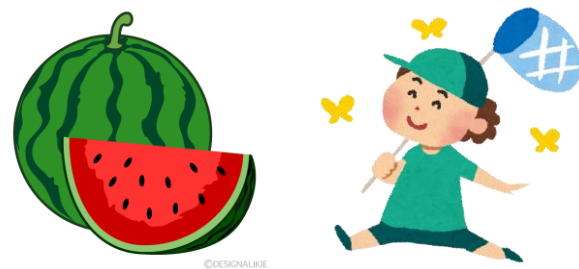
【連絡先】 グループホーム「ハーモニーやまなみ」 担当 吉澤・下田・安田
電話 ０２７９－５４－２９４７ Mail hy@npo-yamanami.jp



共同生活タイプ（男性用）



アパートタイプ（男女どちらも可）



令和８年度賛助会員受付中！

「山脈」の設立趣旨に賛同し、私達の活動を応援してくれる方を募集します。一口 2,000 円で何口でもかまいません。皆様の温かいご理解とご支援を宜しくお願い致します。

賛助会員 年会費 2,000 円(一口)

山脈ニュースをお届けします

賛助会員になられた方には、毎月、当法人の活動の内容をお伝えする「山脈ニュース」をお届けします。

発 行

特定非営利活動法人 山 脈 理事長 笹澤 賢一

住 所：〒370-3604 群馬県北群馬郡吉岡町大字南下 983-2

電 話：0279-54-2947 FAX：0279-54-9171

E-mail：rep@npo-yamanami.jp

URL：http://www.npo-yamanami.jp/

運 営 就労継続支援B型事業所「みやま工房」

就労継続支援B型事業所「麦のゆめ」

就労継続支援B型事業所「キッチンハウスみやま」

グループホーム「ハーモニーやまなみ」1号・2号・3号・5号・6号

(文責：笹澤賢一)

NPO 山脈ニュース 2026.8 法人 No.277

山脈ニュースの発行、24年目に突入しました！

「山脈ニュース」は、平成15年8月、当時、まだ、特定非営利活動法人山脈の発足準備を進めていた「みやま家族会」と運営する無認可施設「みやま作業所」の月刊会報誌「みやま作業所便り」として発行されました。そして、翌年の平成16年2月10日、特定非営利活動法人山脈が認可され、同年4月より「みやま作業所」は、法定内施設となり小規模授産施設「みやま工房」と名前が変わり、「みやま作業所便り」は「山脈ニュース」と名前を変えました。そして、その後、毎月、途絶えることなく発刊し、現在、丸23年が経ち本号で277号を数えることになりました。

法人立上げの準備を進めている当時、私たちはまだ障害福祉について右も左もわからなく、気になる施設があると県内外に関わらず、父母と私は立上げの志を共にする協力者の方々とよく見学に行ったものです。そして、ある施設でお手本となる会報誌に出会い、そこの施設の方から自分達の活動を地域に発信していくことの大切さを教えられたことが会報誌を作るきっかけでした。

見学をした翌月から会報誌「みやま作業所便り」を発刊しましたが、それからこれまでの間、紙面に載せる話題探しにさして苦労をしたことはありませんでした。それは、山脈が地域の様々な方々のご理解とご協力を頂きながら、様々な新しい障害福祉サービスに取り組み大きく成長してきたこと、そして、この間、多くのメンバーさん達にご利用いただいていたことや多くの職員の方々と共に障害者の方々の地域生活を支える福祉サービスを充実させてきたことにほかにありません。

また、一方、この20年余りの間、障害者自立支援法の発足、そして、障害者総合支援法と名を変え、障害福祉サービスは激変しました。障害福祉サービスに成果主義が持ち込まれ、基本報酬の抑制と加算重視の報酬制度、3年に1度の報酬改定の度に私たちは翻弄され続けています。そうした中、現場のリアルな声として伝えたい思いがいつも自然と湧き上がってきて紙面に載せたい話題に事欠くことがありませんでした。そして、今後も物価高騰の中、障害者年金を生活の基盤としている障害者の方々の生活はますます厳しくなる一方であり、障害福祉サービスを取り巻く環境も障害福祉サービスに従事する職員の低賃金とそれに起因する全国的且つ慢性的な職員不足問題を抱えており、厳しさを増すばかりで今後も話題には事欠かないでしょう。本当は声をあげずとも障害のあるなしにかかわらず誰もが安心して暮らせる社会になればいいのですが・・・。

この20年余りの間に紙面も変わってきました。当初はコピー機を使い自前で手作りしていましたが、今やオンラインでデータを印刷業者に転送し、カラー印刷で納品してもらっています。また、平成27年1月号からは法人のホームページにもデータが掲載され、いつでもバックナンバーを見ることができます。ただ、「山脈ニュース」は、初発刊より郵送でお手元に届けることに拘っています。郵送の経費を考えるとメール配信という選択肢も検討したことはありますが、メールは閲覧者の意思で開かれなと読んでほられないということを考え、郵送を続けています。

「山脈ニュース」は毎月、関係する行政、医療、福祉などの関係者をはじめ、山脈の活動にご理解・ご協力を頂いている方々に郵送されています。その数は400か所近くになります。時々、外で関係者の方にお会いした際に、「いつも山脈ニュース、読んでますよ」と声をかけて頂くことがあり、とても励みになっています。

山脈の事務所には第1号から最新号までがファイリングされていて、いつでも閲覧できるようになっています。時々、見返す機会がありますが、「この時はこんなことを考えていたのか」「こんな活動をしていたんだ」など山脈の歴史を振り返ることができ、感慨深く思うこともあります。誰でも閲覧できますので気軽に事務所でお声がけ下さい。

さて、私も来年には還暦を迎えます。そろそろ自身のゴールを見据えながら毎日、山脈に通っています。いつかは「山脈ニュース」作りも誰かに託さなければと考えています。「継続は力なり」といいますが、確かに「山脈ニュース」を作り続けながらこれも山脈のひとつの文化になったのではないかとこの自負を持っています。引き継ぐその時までもう少し「山脈ニュース」作りを頑張りたいと思います。国や障害福祉制度に対して、そして、法人運営についてなど、自分なりの想いをこれからも記しますので、今後もしばしばご拝読頂けたら幸いです。

理事長 笹澤賢一

組織改革、「フラットな組織」への取り組み

山脈は、「障害があっても安心して働き、暮らせる地域社会づくりに寄与する」ことを理念とし、「永続的な障害福祉サービスの継続」を掲げ、組織改革に取り組んでいます。目指すべきは「フラットな組織」です。従来の縦割りの組織では職員が声を発しにくく硬直化し、目まぐるしく変わる社会情勢や障害福祉施策の中、柔軟に対応ができません。そこで、山脈が目指しているのが「フラットな組織」です。しかし、「言うは易し」であり、「フラットな組織」への変革への道のりはまだまだ道半ばといえます。

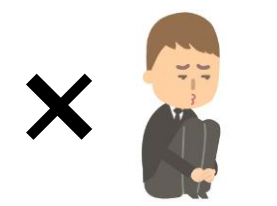
山脈の目指す「フラットな組織」とは？

1. 風通しがよく、立場に関係なく法人の運営に対して自由に提案ができる組織



前向きな発言（提案・提言）

法人の方針を理解し、更に法人を良くするための提案は大歓迎！
前向きな発言は組織にプラスのベクトルが働く！
業務改善、効率化の促進化



後ろ向きの発言（愚痴・不満）

愚痴や不満は言うだけでは問題解決にはならない。
後ろ向きの発言は組織にマイナスのベクトルが働く！
**但し、愚痴や不満は「どうしたら解決できる」と考えることで
プラスのベクトルに変わる！**
愚痴や不満は業務改善の種

2. 主体性を持った職員の集団

法人の経営方針を理解し、法人の置かれている状況を把握したうえで、それぞれの立場、役割を理解し、自ら考え行動できる職員の集団。



- ・自走できる職員は、報告、連絡、相談を欠かさない。
（法人の方針に自分の考えが沿っているかを確認）
- ・段取り、根回しも大切。
（自分の考えを周囲に理解してもらう）

3. 職員が主役の組織

法人の運営について、職員ひとりひとりが自分事として捉え、主体的に参加する組織。

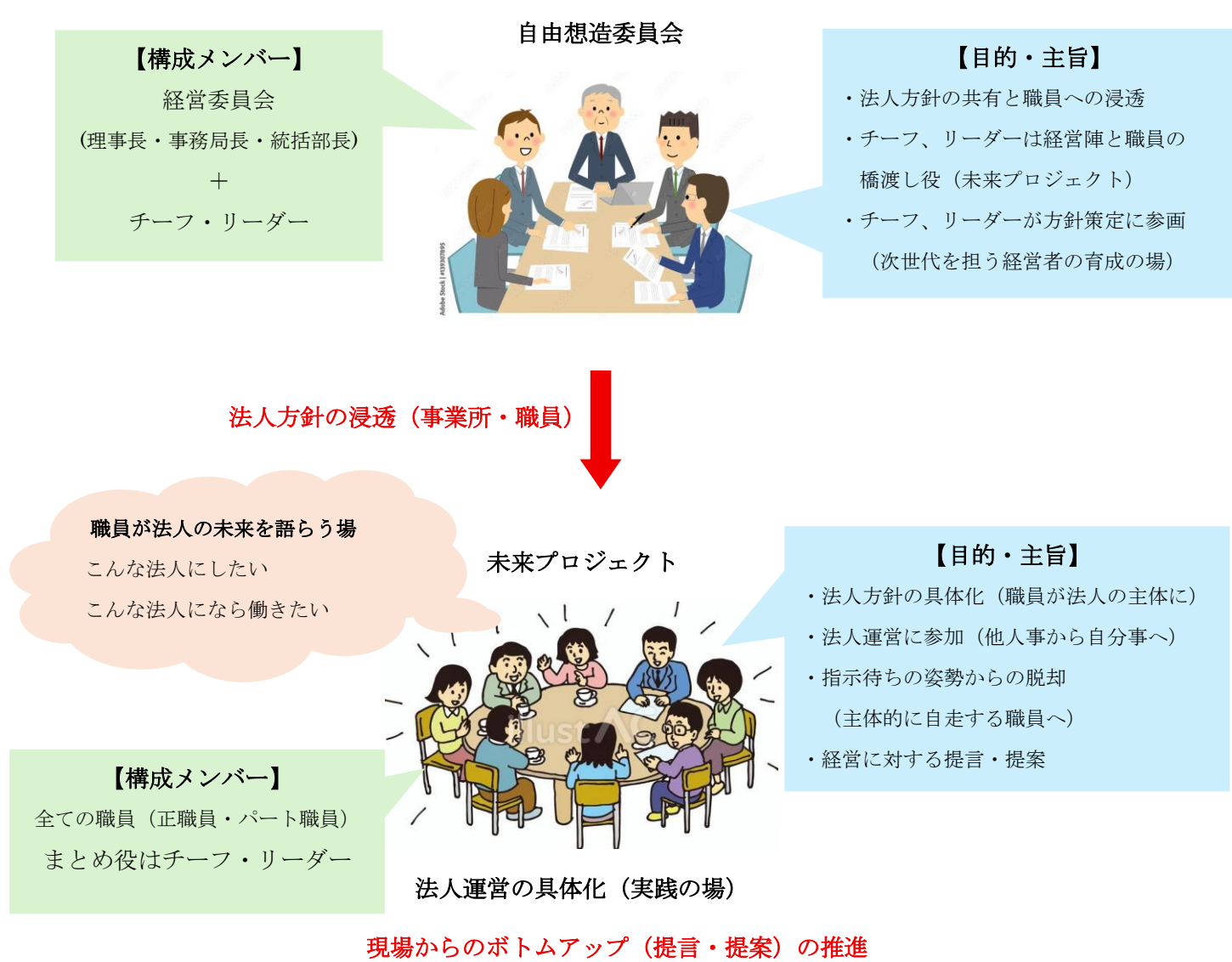
終身雇用制で定年まで会社が面倒見てくれる（会社が何かしてくれる、何とかしてくれる）時代は過去のものになりつつあります。

山脈をどんな法人にしたいかは法人の主役である職員の皆さん次第です。



山脈の「フラットな組織」へ向かう取り組み

今年度より山脈は、「フラットな組織」に向かう取り組みとして、「自由想造委員会」と「未来プロジェクト」というふたつの会議を立ち上げました。どちらの会議も職員の皆様に参加して頂くことで、法人の方針の共有・浸透を図り、実際の法人運営にも携わって頂く機会を増やしていくことが目的です。



「フラットな組織」を実感し、実践する機会の提供

山脈では毎年、職員研修、地域交流事業、運動会、新年会などの様々なイベントを実施していますが、これらのイベントについては「未来プロジェクト」にて、事業所の垣根を越えた職員で構成される運営委員会を作り実施されます。そして、これらイベントの運営は、「フラットな組織」を実感し、実践する場となります。

山脈のような小さな法人にも「縦割り」や「セクショナリズム」は存在します。「フラットな組織」を作るためには「縦割り」や「セクショナリズム」の壁を取り壊していく必要があります。そのためには、職員ひとりひとりが自分の業務や所属する事業所以外にも目を向け、法人全体についても視野を広げる機会を増やすことが大事だと考えます。

同様に虐待防止や身体拘束、感染症、BCPに関する委員会、授産事業の活性化や支援向上に関する委員会なども同様に事業所の垣根を越えた職員で構成されています。

「フラットな組織」を法人の文化・風土に！

企業や法人など組織における文化や風土は意図的に形成するものだと思います。理想とする文化や風土があるならばその方向に向かうべく道筋を引く必要があります。山脈は「フラットな組織」を法人の文化・風土としたいと考えています。「障害のある人が安心して働き、暮らせる社会の一助に」という理念を追求しつづけるため、利用者、職員にとって理想とする山脈が永続するために「フラットな組織」を目指しこれからも努力し続けます。